

寸言

株式会社IHI
常務執行役員 航空・宇宙・防衛事業領域長
盛田 英夫



航空エンジン・ロケットシステム事業の展望

本年4月に株式会社IHIの航空・宇宙・防衛事業領域長に就任いたしました盛田英夫です。当領域の航空エンジン・ロケットシステム事業の展望をご紹介します。

国際情勢はアジア圏において大きな変化が見られ、我が国の安全保障環境は一段と厳しさを増しています。その中であって昨年度開発がスタートした次期戦闘機では、主契約者である三菱重工業株式会社殿を主体とした開発チームに弊社も参画しています。将来戦闘機用エンジンとして2018年に防衛装備庁に納入したXF9-1エンジンは、推力15トンという世界レベルの性能を達成したと伺っており、その後も我が国主導の次期戦闘機用エンジン開発に向け、着実に技術開発に取り組んでいます。実用エンジンの開発を成功させ、我が国の安全保障により一層貢献していきたいと考えております。

昨年からのコロナ禍は未だ予断を許さない状況にありますが、昨年度大きく落ち込んだ世界の航空旅客需要も徐々に回復していくと思われれます。こうした状況の中、2030年代の就航を目指した次世代民間航空機が想定されています。弊社は、これまでV2500（A320搭載）からGE9X（B777X搭載）まで、7種類の民間航空用エンジンの国際共同開発にパートナーとして参画してきました。これらの開発で培った材料や加工技術といった独自技術をもって、次世代機用のエンジン開発にも参画していきます。また、新鋭鶴ヶ島工場において、世界最高レベルを目指した民間エンジン整備の立上げを進めています。世界中のお客さまにエンジン整備を

提供してライフサイクルコスト低減に貢献して参ります。

さらに昨年から急速に進んだ世界的な動向として脱CO2の動きが活発化しています。弊社も、エンジンのさらなる高性能化や軽量化によるCO2排出量の削減を追求すると共に、エンジンを含む航空機システムのステップチェンジに向けて、電動化、水素燃料適用等の技術開発を進めます。

宇宙分野においても、小型サイズを中心に衛星の数量が増え、打上げロケットの需要が拡大しています。大型衛星用の次期H3ロケットでは、固体ロケットブースターやエンジン用ターボポンプなど重要部分の開発を担当しています。小型・中型衛星用のイプシロンロケットは弊社が中心となって開発を進め、打上げ輸送サービス事業にも取り組んでいきます。さらに年間20回の小型・超小型衛星打上げを目指すスペースワンロケットの開発にも参画しています。超小型から大型までのロケットラインナップを構築すべく、これからも尽力して参ります。

コロナ禍による航空産業後退の中、欧米各社はリストラを進めながらデジタル化を中心とする技術のブラッシュアップを進めており、市況回復の後には、一段と進んだ競争環境が現れると思います。身を縮めている今こそ、剣を磨く時と考えます。国内サプライチェーン・バリューチェーンの実力を高めるために、弊社も全力を注いで参ります。関係各位のご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。